

2.4 悪臭

2.4.1 処理方式ごとの検討結果

悪臭の処理方式ごとの比較検討結果は表2-4-1に示すとおりである。

全ての処理方式で臭気指数10未満となったため、本編には大気質と同様の「ストーカ式焼却+灰溶融（燃料）方式」を記載した。

表 2-4-1 処理方式ごとの最大着地濃度地点の臭気指数

項 目		煙源諸元					
		ストーカ式焼却 +灰溶融（燃料） 方式		流動床式ガス化 溶融方式		シャフト炉式 ガス化溶融方式	
		最も 排ガス が多い 場合	最も 排ガス が少ない 場合	最も 排ガス が多い 場合	最も 排ガス が少ない 場合	最も 排ガス が多い 場合	最も 排ガス が少ない 場合
		ケース 1	ケース 2	ケース 1	ケース 2	ケース 1	ケース 2
炉数（炉）		焼却炉+溶融炉 （2炉）		溶融炉 （2炉）		溶融炉 （2炉）	
1 炉 あ た り	（湿り）排ガス量（Nm ³ /h）	21,040	18,060	17,940	10,620	20,557	11,520
	（乾き）排ガス量（Nm ³ /h）	17,070	14,980	16,030	8,180	16,983	9,050
	排出ガス温度（℃）	162	163	158	186	167	176
	吐出速度（m/s）	28.1	27.4	29.8	20.9	23.9	23.0
煙突高さ（排出源高さ）（m）		59		59		59	
稼働時間（時間/日）		24		24		24	
排出口における臭気濃度		7,200（臭気指数：39）					
最大着地地点濃度（臭気指数）		6	6	6	5	6	5
気象条件		大気安定度：A 風速：1 m/s					